

成人薬剤アレルギーの疫学調査

研究分担者 谷口正実 国立病院機構相模原病院臨床研究センター 病態総合研究部部長
研究協力者 福富友馬 国立病院機構相模原病院臨床研究センター 研究員

研究要旨：

薬剤は成人アナフィラキシーの原因の中で頻度の高いもののひとつであり、さらに、薬剤アレルギーは医原性の疾患であるために、臨床医にとって関心の高いもののひとつである。しかしながら、本邦において薬剤アレルギーの有病率などの疫学データは十分になく、その実態は明らかになっていない。本研究の目的は、インターネットによる疫学調査で薬剤アレルギーの有病率とその実態を明らかにすることである。

マクロミル社のネットリサーチモニタを対象に調査を行った。全国の20-54歳の成人6000名の登録モニタを対象にネット上で調査を依頼し、薬剤アレルギーの有無や、原因薬剤について調査した。あなたはこれまでに、「薬を飲んで何らかのアレルギー症状がでたことがありますか？」という質問に「はい」と回答したものを薬剤アレルギーと定義した。

5,424件の回答が得られ、回収率は90.4%であった。全体の薬剤アレルギーの有病率は8.4%であったが、有病率の年齢階級・性別にみたところ、いずれの年齢階級においても男性よりも女性の有病率のほうが高く、特に45-54歳女性でもっとも有病率が高かった。原因薬剤としては、抗生剤(38%)と解熱鎮痛剤(27%)が頻度が高かった。誘発症状は全身性蕁麻疹が最も多かったがショックを疑う症状もそれぞれ19%、12%に認めた。薬剤アレルギーが一般集団においても比較的頻度の高い疾患である可能性が示唆された。特に解熱鎮痛剤は約半数が市販薬で症状が起こっており、一般市民レベルにおいても薬剤アレルギーに関する知識の普及啓発活動の必要性が示唆された。

A. 研究目的

薬剤は成人アナフィラキシーの原因の中で頻度の高いもののひとつであり、さらに、薬剤アレルギーは医原性の疾患であるために、臨床医にとって関心の高いもののひとつである。しかしながら、本邦において薬剤アレルギーの有病率などの疫学データは十分になく、その実態は明らかになっていない。

インターネットによるアレルギー疾患の有病率調査は、近年注目されてきている新規の疫学調査方法である。これは、従来の訪問調査に

よる疫学調査に比べて低コストで迅速に調査できるというメリットがある。我々は、気管支喘息有病率調査でネット調査の有用性、妥当性を検討し既に報告している。

本研究の目的は、ネット調査で薬剤アレルギーの有病率とその実態を明らかにすることである。

B. 研究方法

マクロミル社のネットリサーチモニタを対

象に調査を行った。全国の 20-54 歳の成人 6000 名の登録モニタを対象にネット上で調査を依頼し、薬剤アレルギーの有無や、原因薬剤について調査した。あなたはこれまでに、「薬を飲んで何らかのアレルギー症状がでたことがありますか？」という質問に「はい」と回答したものを薬剤アレルギーと定義した。また、薬剤により誘発される症状に関して、その特徴を詳細に聞いた。

(倫理面への配慮)

本研究は国立病院機構相模原病院の倫理委員会の承認を得て行われている。

C. 研究結果

5,424 件の回答が得られ、回収率は 90.4% であった。全体の薬剤アレルギーの有病率は 8.4% であったが、有病率の年齢階級・性別にみたところ、いずれの年齢階級においても男性よりも女性の有病率のほうが高く (図 1)、特に 45-54 歳女性でもっとも有病率が高かった (15% 程度)。原因薬剤としては、抗生剤 (38%) と解熱鎮痛剤 (27%) の頻度が高かった (図 2)。抗生剤、解熱鎮痛剤共に、大半の症例が薬剤使用後 2 時間以内に症状が経験しており (図 3、78%、68%)、誘発症状は全身性蕁麻疹が最も多かったが (57%、50%) ショックを疑う症状もそれぞれ 19%、12% に認めた (図 4)。解熱鎮痛剤に関しては、市販薬で症状がおこったものも約半数占めていた (図 5)。

図 1 性別年齢階級別にみた薬剤アレルギーの有病率

あなたはこれまでに、薬を飲んで何らかのアレルギー症状がでたことがありますか？

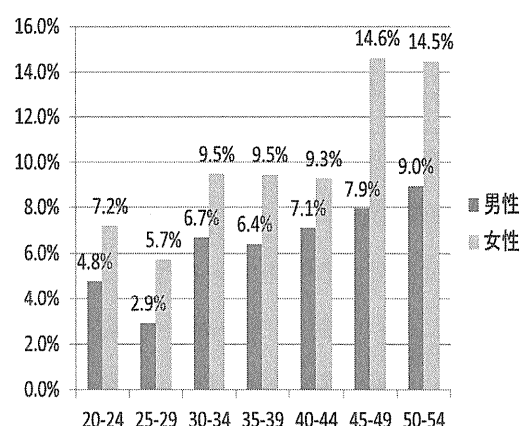


図 2 薬剤アレルギー症例の原因薬剤

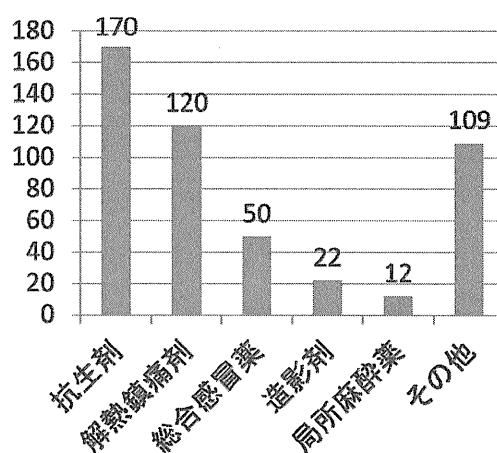


図 3 薬剤使用後から症状誘発までの時間

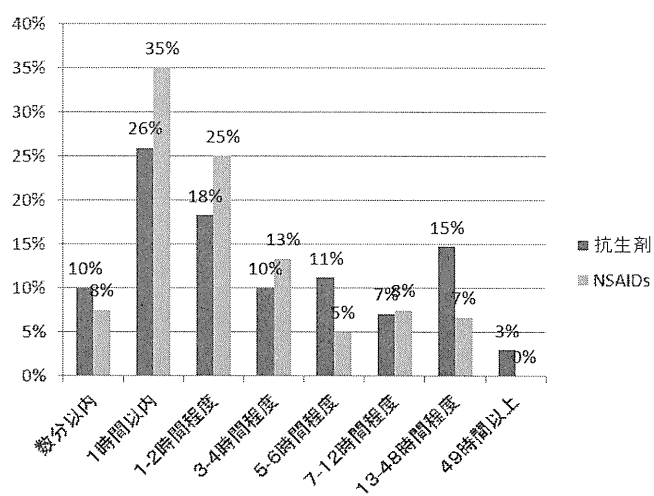


図4 誘発されるアレルギー症状

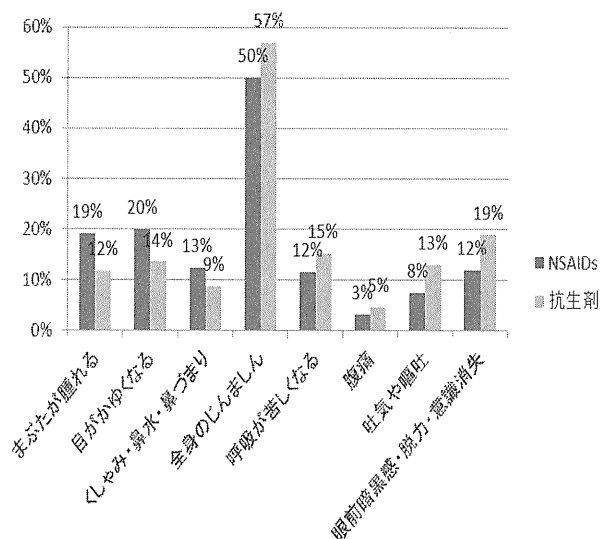
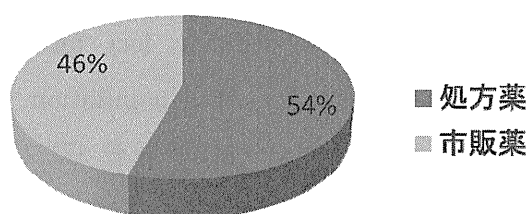


図5 症状の原因となったNSAIDs

症状の原因となったNSAIDs



処方薬のみならず市販薬で症状を起こすこともしばしばある

D. 考察

薬剤アレルギーの有病率は8.4%であり、誘発症状や誘発までの時間から即時型症状をきたすものが多いことが示唆された。さらに、そのうち10-20%はショックを疑うような重篤な症状をきたしていた。この有病率は当初想定していたものよりも高く、薬剤アレルギーが一般集団においても比較的頻度の高い疾患である

可能性が示唆された。特に解熱鎮痛剤は約半数が市販薬で症状が起こっており、一般市民レベルにおいても薬剤アレルギーに関する知識の普及啓発活動の必要性が示唆された。

E. 結論

本邦での成人薬剤アレルギーの有病率と実態が明らかになった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Konno S, Hizawa N, Fukutomi Y, Taniguchi M, Kawagishi Y, Okada C, Tanimoto Y, Takahashi K, Akasawa A, Akiyama K, Nishimura M: The prevalence of rhinitis and its association with smoking and obesity in a nationwide survey of Japanese adults Allergy in press. 2012. / 原著 (欧文)

2) Fukutomi Y, Sjölander S, Nakazawa T, Magnus P Borres, Ishii T, Nakayama S, Tanaka A, Taniguchi M, Saito A, Yasueda H, Nakamura H, and Akiyama K: Clinical relevance of IgE to rGly m 4 in diagnosis of adult soybean allergy. J Allergy Clin Immunol 2012 in press. / 原著 (欧文)

3) Fukutomi Y, Itagaki Y, Taniguchi M,

- Saito A, Yasueda H, Nakazawa T, Hasegawa M, Nakamura H, Akiyama K: Rhinoconjunctival sensitization to hydrolyzed wheat protein in facial soap can induce wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis. *J Allergy Clin Immunol.* 127(2): 531-533.e1-3, 2011. / 原著 (欧文) レター
- 4) Ono E, Taniguchi M, Higashi N, Mita H, Yamaguchi H, Tatsuno S, Fukutomi Y, Tanimoto H, Sekiya K, Oshikata C, Tsuburai T, Tsurikisawa N, Otomo M, Maeda Y, Hasegawa M, Miyazaki E, Kumamoto T, Akiyama K : Increase in salivary cysteinyl-leukotriene concentration in patients with aspirin-intolerant asthma. *Allergol Int.* 60(1): 37-43, 2011. / 原著 (欧文)
- 5) Sekiya K, Watai K, Taniguchi M, Mitsui C, Fukutomi Y, Tanimoto H, Kawaura N, Akiyama K : Latex anaphylaxis caused by a Swan-Ganz catheter. *Intern Med.* 50(4): 355-7, 2011. / 原著 (欧文)
- 6) Fukutomi Y, Taniguchi M, Watanabe J, Nakamura H, Komase Y, Ohta K, Akasawa A, Nakagawa T, Miyamoto T, Akiyama K : Time Trend in the Prevalence of Adult Asthma in Japan: Findings from Population-Based Surveys in Fujieda City in 1985, 1999, and 2006. *Allergol Int.* 2011. / 原著 (欧文)
- 7) Sekiya K, Taniguchi M, Fukutomi Y, Tsuburai T, Mitsui C, Tanimoto H, Oshikata C, Tsurikisawa N, Hasegawa M, Akiyama K : Actual control state of intermittent asthma classified on the basis of subjective symptoms. *Intern Med.* 50(15): 1545-51, 2011. / 原著 (欧文)
- 8) Hirota T, Takahashi A, Kubo M, Tsunoda T, Tomita K, Doi S, Fujita K, Miyatake A, Enomoto T, Miyagawa T, Adachi M, Tanaka H, Niimi A, Matsumoto H, Ito I, Masuko H, Sakamoto T, Hizawa N, Taniguchi M, Lima JJ, Irvin CG, Peters SP, Himes BE, Litonjua AA, Tantisira KG, Weiss ST, Kamatani N, Nakamura Y, Tamari M: Genome-wide association study identifies three new susceptibility loci for adult asthma in the Japanese population. *Nat Genet.* 43(9): 893-6, 2011. / 原著 (欧文)
- 9) Shirai T, Yasueda H, Saito A, Taniguchi M, Akiyama K, Tsuchiya T, Suda T, Chida K: Effect of Exposure and Sensitization to Indoor Allergens on Asthma Control Level. *Allergol Int.* 2011. / 原著 (欧文)
- 10) Yamaguchi H, Higashi N, Mita H, Ono E, Komase Y, Nakagawa T, Miyazawa T, Akiyama K and Taniguchi M: Urinary concentrations of 15-epimer of lipoxin A4 are lower in patients with aspirin-intolerant compared with aspirin-tolerant asthma. *Clinical & Experimental Allergy:* 1-8 (doi: 10. 1111 /

j.1365 – 2222 . 2011. 03839. x), 2011. / 原著 (欧文)

11) Fukutomi Y, Taniguchi M, Tsuburai T, Tanimoto H, Oshikata C, Ono E, Sekiya K, Higashi N, Mori A, Hasegawa M, Nakamura H and Akiyama K: Obesity and aspirin intolerance are risk factors for difficult-to-treat asthma in Japanese non-atopic women. *Clinical & Experimental Allergy*: 1–9 (doi: 10.1111/j.1365-2222.2011.03880.x) , 2011. / 原著 (欧文)

12) Higashi N, Mita H, Yamaguchi H, Fukutomi Y, Akiyama K, Taniguchi M: ARTICLE IN PRESS Letter to the Editor Urinary tetranor-PGDM concentrations in aspirin-intolerant asthma and anaphylaxis. *J ALLERGY CLIN IMMUNOL*. 2011. / 原著 (欧文) レター

13) Fukutomi Y, Kawakami Y, Taniguchi M, Saito A, Fukuda A, Yasueda H, Nakazawa T, Hasegawa M, Nakamura H, Akiyama K: Allergenicity and cross-reactivity of booklice (*Liposcelis bostrichophila*): A common household insect pest in Japan. *International Archives of Allergy and Immunology*. 2011. / 原著 (欧文)

2. 学会発表

1) 谷口正実: 教育講演 喘息・アレルギー疾患に対する抗原特異的免疫療法の有用性. The

21st Congress of Interasma Japan / North Asia, 岐阜県, 2011./ 国際学会 (講演)

2) 谷口正実: クリニカルレクチャー4 Churg Strauss 症候群. 第 23 回日本アレルギー学会 春季臨床大会, 千葉県, 2011. / 国内学会 (講演)

3) 谷口正実: 基調講演 2 成人喘息からみた One Airway, One Disease、特に好酸球性鼻副鼻腔炎と喘息について. 第 23 回日本アレルギー学会 春季臨床大会, 千葉県, 2011. / 国内学会 (講演)

4) Taniguchi M: Late-breaking abstracts presented at scientific sessions L3 Effect Of Intravenous Immunoglobulin On Steroid-resistant Peripheral Neuropathy In Patients With Churg-Strauss Syndrome : A Double-blind, Placebo-controlled, Randomized Multice. AAAAI ANNUAL MEETING 2011, San Francisco, USA, 2011. / 国際学会 (シンポジウム)

5) 谷口正実: JP1-4 「日本耳鼻咽喉科学会と共同企画」成人喘息からみた One Airway, One Disease、特に好酸球性鼻副鼻腔炎と喘息について. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2011. / 国内学会 (シンポジウム)

6) 谷口正実, 福富友馬, 秋山一男: EVS1-2 日本人成人喘息における最新の疫学. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. / 国内学会 (シンポジウム)

7) 谷口正実, 福富友馬, 関谷潔史, 谷本英則,
三井千尋, 粒来崇博, 美濃口健治, 秋山一男:
EVS6-1 重症喘息の背景因子. 第 61 回日本ア
レルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2011. /
国内学会 (シンポジウム)

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Fukutomi Y, Sjölander S, Nakazawa T, Borres P M, Ishii T, Nakayama S, Tanaka S, Taniguchi M, Saito A, Yasueda H, Nakamura H, Akiyama K.	Clinical relevance of IgE to rGly m 4 in diagnosis of adult soybean allergy:	J Allergy Clin Immunol.	In press		2012
Fukutomi Y, Itagaki Y, Taniguchi M, Saito A, Yasueda H, Nakazawa T, Hasegawa M, Nakamura H, Akiyama K.	Rhinoconjunctival sensitization to hydrolyzed wheat protein in facial soap can induce wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis.	J Allergy Clin Immunol.	127(2)	531-533.e1-3	2011
福富友馬.	アレルギーとしての食品化粧品に含まれる食物アレルギー 経皮感作による食物アレルギーについて	日本小児アレルギー学会誌	25巻1号	p50-56	2011
松倉節子, 板垣康治, 石村満ちる, 前田修子, 中河原怜子, 池澤優子, 相原道子, 蒲原毅, 池澤善郎	パパイン酵素入り洗顔料による接触蕁麻疹とワサビによるアナフィラキシーの合併例	皮膚病診療	33	503-506	2011
松倉節子, 相原道子, 池澤善郎	特集アレルギー疾患～感作と発症のからくり～ II. 臨床現場からとらえた感作と発症 1. 食物アレルギーの発症と経皮感作.	アレルギー・免疫	19	46-68	2011

平成 23 年度 厚生労働科学研究費補助金
免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
「成人独自のアナフィラキシーの実態と病態に関する研究」
研 究 報 告 書

2012 年 3 月 31 日発行

発行者 独立行政法人国立病院機構相模原病院 福富友馬
〒252-0392 神奈川県相模原市南区桜台 18-1

